

編集後記

10年近く前だったと思います。

著名な研究団体の M 氏が「駄目な教師の共通点」としてあげた、次の3つの文を読んだことがあります。

- 1 「子どもができない」「子どもがきちんとならない」ことの責任を他人のせいにする。
- 2 「教育の情報が狭い」ということ。
- 3 「主語・述語」がはっきりとした文が書けないということ。

以上の3点でした。

その時の私は、1は大丈夫、2は教育雑誌を6冊は読んでいたから大丈夫、3は学級通信（日刊）の文章を読み直し大丈夫だろうと自分に言い聞かせていたものです。

それから10年、昨年の秋にある教育雑誌を読んでいると、偶然にもM氏の同じ文章が目にとまりました。

それを読んで私ははっとしたのです。1は最近あやしい。2も読む雑誌の量が確実に減っています。20代～30代は、研究会で毎年全国各地へと歩き回っていました。40代は模擬授業をして回っていました。その時と比べると今は明らかにフットワークが重いのです。

ちょっと黄色信号かなと思っています。

今回、北海道師範塾「教師の道」で、研究紀要「北の教師道」創刊号を作製致しました。

16名の方から18本の原稿が届きました。お忙しい中、原稿をご執筆くださった先生方、本当にありがとうございます。どの原稿も読み応えあるものばかりです。

内容の充実したものが多く、原稿が送信されてくるたびに時間を忘れて読むことに集中しておりました。

私の黄色信号も少しは色が変わってきたようです。皆様におかれましても、是非御一読なされることを願って編集後記の言葉と致します。



研究紀要「北の教師道」編集担当
斉藤満幸